

岡山大学

「文系から理系までの学生を遍く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム」に係る自己点検・評価書

令和3年5月

国立大学法人岡山大学

数理・データサイエンス教育タスクフォース

1. 点検・評価の実施

数理・データサイエンス教育タスクフォースが実施主体となり、前年度開講した「文系から理系までの学生を遍く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム」に関連する授業科目の点検・評価を行った。内容、方法などは「岡山大学における教育の内部質保証に関する方針・手順」を準用した。また、教育プログラムの達成・進捗状況の点検・評価も合わせて行なった。

2. 点検・評価の対象

授業科目の点検・評価では、前年度開講した授業科目「数理・データサイエンスの基礎」および「数理・データサイエンスの基礎演習 A」、並びに授業担当教員による学生の学修成果の評価を対象とした。

3. 評価結果の判定

評価結果に基づき、以下の三段階の評価レベルで判定を行った。

【評価レベル】

- 3 『優れた点』があり、十分に行われている。
- 2 概ね行われており、相応である。
- 1 改善の必要がある。

4. 点検・評価結果

(1) 授業科目の点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
学位プログラムにおける担当科目の位置づけを理解し、教養教育 DP 要素と各部局のカリキュラム・ポリシーにそって授業を設計し、運営しているか。	数理・データサイエンス教育タスクフォースは、全学教育学生支援機構、および学部から数理・データサイエンス専門の教員に加え、教養教育や各学部から代表者が集まり構成されている。数理・データサイエンス教育タスクフォースにおいて、全学における担当科目の位置づけを理解し、数理・データサイエンス教育タスクフォース内で議論を重ね授業を設計した。設計した計画に従い、令和2年度の第1学期、第2学期に試行授業を行い改善をはかり、令和2年度第3学期に理系学部で「数理・データサイエンスの基礎」を実施し、令和2年度4学期には「数理・データサイエンスの基礎演	点検結果のとおり、担当科目の位置づけを理解し DP,CP に沿って授業を設計し運営しており、基準を満たしているといえる。 (評価レベル3)

	習 A]を教養教育科目特別開講として試行授業を行った。	
学生の到達目標の達成状況を正確に把握するために、適切な方法により成績評価を行っているか。	数理・データサイエンスの基礎」および「数理・データサイエンスの基礎演習 A」においては、本授業科目については、数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の 6 拠点 6 大学の一つである滋賀大学が開発した教材を利用している。その教材には各トピックごとに小テストが含まれており、その教材を理解し、学生が到達目標に達しているかを見るための小テストも成績評価の対象としている。また、それに加え、学生の達成目標の達成状況を把握できるように本学独自の小テスト、および演習も LMS 上で行い成績評価を行っている。	達成目標に従い、滋賀大学の教材や授業内容、課題、小テストを検討し、適切に配置しており、適切な方法で成績評価を行っている。よって基準を満たしているといえる。 (評価レベル 2)
到達目標、成績評価の方法、コンピテンシーを授業科目毎のシラバスに記載し、変更がある際には事前に開示しているか。	到達目標、成績評価の方法、コンピテンシーについては、授業科目毎にシラバスに明記してある。変更がある際には、LMS 上でアナウンスし授業中もアナウンスするなど学生に周知している。	シラバスに明記され、変更がある場合も適切に対応しており、基準を満たしているといえる。 (評価レベル 2)
シラバス等であらかじめ開示した評価方法及び評価基準に基づき評価を行っているか。	どの授業もシラバスで予め評価方法については、滋賀大学作成教材の小テストに加え、LMS を利用し本学独自の小テスト、提出課題により評価する旨を明記しており、それに従い適切に評価基準に基づき評価を行っている。	適切に評価を行っており、基準を満たしているといえる。 (評価レベル 2)
学修成果の評価に用いた課題の答案等の原本又は写しをできる限り返却しているか。	どの授業科目も、LMS 上で運営しており、小テストについては期限到達後にフィードバックが行われている。演習課題についても、LMS 上で返却が可能なものについては、LMS の機能を用い、指摘する点などはその都度指摘して返却するなどしている。	LMS を利用し、フィードバック等がされており、基準を満たしているといえる。 (評価レベル 2)
成績評価状況等から学修成果獲得状況を分析し、その結	成績評価状況については、授業実施中においても定期的開催されている数理データサイエンス教育タスクフォース会議内で、実施状	より良い授業とするために授業実施中もタスクフォー

果を次期の授業設計に活用しているか。また、点検・評価組織に成績評価状況の情報を提供しているか。	況、学生の学習状況の報告を各授業においてなされ、問題があれば検討し改善を速やかに行っている。授業実施後も、タスクフォースの会議内で学習成果獲得状況が報告され、次年度の授業設計の改善などを検討している。また、本科目は教養教育科目でもあるため、成績評価状況を全学教育システム委員会に報告している。	ス、授業実施教員が協力して改善を行っており基準を満たしているといえる。 (評価レベル2)
学修成果の評価に用いた教育関係文書を規程に従って保存しているか。	学修成果の評価に用いた課題・問題については、新型コロナウイルス拡大防止の対応もしていることもあり、すべての授業でLMS上に保存されている。	LMS上に保存されており基準を満たしているといえる。 (評価レベル2)
授業評価アンケートの結果等を参考に授業の計画、教育方法、評価方法等を定期的に振り返り、改善を図っているか。	各授業毎に授業評価アンケートを行っており、結果を参考に次年度の授業の計画の改善を図っている。またその内容についても数理データサイエンス教育タスクフォースの議題としてあげられ、タスクフォース内でも議論が行われ改善を図っている。	授業実施教員および数理データサイエンス教育タスクフォースが協力し授業の改善を図っており、基準を満たしているといえる。(評価レベル2)

(2) 教育プログラムの点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認できているか。	令和2年度の履修状況はタスクフォースの会議内で共有されている。令和2年度から「数理・データサイエンスの基礎」は理系学部（1部の学部学科を除く）1年次生向けに必修科目として開講され、計画通りの履修者数となっている。次年度からは文系学部1年次生にも必修化する授業計画も決定しており、本教育プログラムは当初の予定通り進行していることを確認した。	数理・データサイエンス教育の全学必修化に向けて着実に進行しており、基準を十分に満たしているといえる。 (評価レベル3)
教育プログラム修了者の進路・活躍状況	令和3年3月時点で本教育プログラムの修了者はいない。	

<p>況を把握し、就職先などの関係者から意見聴取を行っているか。</p>		
<p>評価結果を学内及び社会に対して広く公開しているか。</p>	<p>令和2年度の本教育プログラムに関する自己点検・評価結果を令和3年6月から以下のURLに公開を予定している。 https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/kikan/ds/master/wp-content/uploads/2021/06/DSTF_IE_2020.pdf</p>	<p>自己点検・評価は終了しており、大学HPへの公開も予定されているので基準を満たしているといえる。 (評価レベル2)</p>